

各 位

フィデアホールディングス株式会社
株式会社 荘内銀行
株式会社 北都銀行

平成 27 年 3 月期（平成 26 年度）決算概要について

フィデアホールディングス株式会社（本社：仙台市、社長：里村 正治、以下「フィデアHD」）は、平成 27 年 3 月期（平成 26 年度）の連結業績と株式会社荘内銀行（本店：山形県鶴岡市、頭取：國井 英夫、以下「荘内銀行」）及び株式会社北都銀行（本店：秋田市、頭取：斉藤 永吉、以下「北都銀行」）の単体業績等につきまして、下記の通りお知らせいたします。

記

1. フィデアHD

(1) 平成 27 年 3 月期（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）連結業績

ニューフロンティアビジネス（再生可能エネルギー、医療介護、アグリビジネス、観光など新しい成長分野）及び個人リテール分野への取り組み強化により、業容は順調に拡大し増収。有価証券ポートフォリオマネジメントの奏功による資金利益の増加、加えて預かり資産関連の役員取引等利益の増加等により、業務純益、コア業務純益は増益。経常利益は前期に続き過去最高益を更新。当期純利益は、荘内銀行単体が 30 億 13 百万円、北都銀行単体が 40 億 27 百万円、フィデアHD連結が 76 億 57 百万円となり、それぞれ前期に続き過去最高益を更新。

譲渡性預金を含む預金等残高は、個人預金、法人預金を中心に前期末比 1,325 億円（5.6%）増加し、2兆 4,895 億円。貸出金残高は、宮城県を中心とした個人ローンの増加や、山形県や秋田県での事業性貸出、地方公共団体向け貸出の積上げにより、前期末比 553 億円（3.3%）増加の 1兆 7,195 億円。

連結自己資本比率は、内部留保の増加及び平成 25 年 12 月発行の転換社債型新株予約権付社債の普通株式転換の進展により前期末比 0.10 ㊦上昇し 9.12%（速報値）。

コア業務粗利益経費率（OHR）は、資金利益の増加を背景に前期比 0.91 ㊦良化し 74.84%。

2行合算（単体）の金融再生法開示債権比率は、前期末比 0.52 ㊦低下し 2.32%。

平成 27 年 3 月期の配当は、普通株式 1 株当たり 5 円の期末配当を実施（年間 5 円）。

		番号	フィデアHD	前期(末)	前期(末)比	同増減率
【連結】	損 益	経常収益	(1) 50,944 百万円	50,731 百万円	212 百万円	0.4 %
		業務純益	(2) 10,904 百万円	9,395 百万円	1,509 百万円	16.0 %
		コア業務純益*	(3) 9,827 百万円	9,180 百万円	646 百万円	7.0 %
		経常利益	(4) 10,865 百万円	10,165 百万円	699 百万円	6.8 %
		当期純利益	(5) 7,657 百万円	6,220 百万円	1,437 百万円	23.1 %
	主要勘定残高 (末残)	総資産	(6) 28,312 億円	25,971 億円	2,340 億円	9.0 %
		預金等(譲渡性預金を含む)	(7) 24,895 億円	23,569 億円	1,325 億円	5.6 %
		貸出金	(8) 17,195 億円	16,641 億円	553 億円	3.3 %
		有価証券	(9) 9,968 億円	8,246 億円	1,721 億円	20.8 %
		自己資本比率	自己資本比率(速報値)	(10) 9.12 %	9.02 %	0.10 ㊦
【合算】	不良債権	経営効率	コア業務粗利益経費率(OHR)	(11) 74.84 %	75.75 %	△ 0.91 ㊦
		金融再生法開示債権額	(12) 40,950 百万円	48,459 百万円	△ 7,508 百万円	△ 15.4 %
		総与信に占める割合	(13) 2.32 %	2.84 %	△ 0.52 ㊦	
		与信関係費用	(14) 2,070 百万円	2,142 百万円	△ 72 百万円	△ 3.3 %

* コア業務純益 = 業務純益 - 国債等債券損益(5勘定戻) + 一般貸倒引当金純繰入額（以下、同様。）

(2) 平成 28 年 3 月期（平成 27 年度）連結業績予想等

平成 28 年 3 月期通期連結業績は、業容の順調な拡大を背景に資金利益や役員取引等利益の増加を見込み、前期比増益の計画。

平成 28 年 3 月期の配当は、普通株式 1 株当たり 5 円の期末配当を計画（年間 5 円）。

		番号	第2四半期 累計期間	前年同期比	同増減率	通期	前期比	同増減率
フィデアHD (連結)	経常利益	(15)	5,300 百万円	△ 499 百万円	△ 8.6 %	11,000 百万円	134 百万円	1.2 %
	親会社株主に帰属する当期(中間)純利益	(16)	3,800 百万円	△ 1,207 百万円	△ 24.1 %	8,000 百万円	342 百万円	4.4 %



2. 荘内銀行

(1) 平成 27 年 3 月期（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）単体業績

山形県のほか宮城県を主な地盤として新規出店や店舗リニューアル等のチャネル戦略を推進したこと等により、預貸金は引き続き順調に拡大。預金の増加を背景とした運用資産の積み上げやマーケット環境を考慮のうえ取り組んだ有価証券ポートフォリオマネジメントが奏功し、有価証券利息配当金が増加。また、顧客の裾野拡大が進展する中、預かり資産分野やバンカシュアランス（銀行と保険サービスの融合）への継続的な取り組みにより、役務取引等収益も増加。経常収益は前期比 8 億 9 百万円（3.3%）増収。業務純益、コア業務純益、経常利益はいずれも増益。当期純利益は前期に続き過去最高益を更新。

譲渡性預金を含む預金等残高は、個人預金、法人預金を中心に前期末比 1,087 億円（9.0%）増加し、1 兆 3,116 億円。貸出金残高は、個人ローン、事業性貸出、地方公共団体向け貸出が総じて増加し、前期末比 372 億円（4.1%）増加の 9,349 億円。

単体自己資本比率は、内部留保が増加した一方で、業容の拡大を背景として信用リスクアセットが増加したこと等に伴い、前期末比 0.55 ㊦低下し 10.18%（速報値）。

コア業務粗利益経費率（OHR）は、資金利益の増加を背景に前期比 0.94 ㊦良化し 72.50%。

金融再生法開示債権額は、前期末比 4 億円増加。総与信に占める割合は前期末比 0.06 ㊦低下し 2.66%。

		番号	荘内銀行			
			前期(末)	前期(末)比	同増減率	
【単体】	損益	経常収益 (17)	24,693 百万円	23,884 百万円	809 百万円	3.3 %
		業務純益 (18)	5,221 百万円	4,324 百万円	897 百万円	20.7 %
		コア業務純益* (19)	5,168 百万円	4,816 百万円	351 百万円	7.2 %
		経常利益 (20)	5,012 百万円	4,374 百万円	638 百万円	14.5 %
		当期純利益 (21)	3,013 百万円	2,610 百万円	403 百万円	15.4 %
	主要勘定残高(末残)	預金等(含む譲渡性預金) (22)	13,116 億円	12,029 億円	1,087 億円	9.0 %
		貸出金 (23)	9,349 億円	8,976 億円	372 億円	4.1 %
		有価証券 (24)	5,015 億円	3,801 億円	1,214 億円	31.9 %
	自己資本比率	自己資本比率(速報値) (25)	10.18 %	10.73 %	△ 0.55 ㊦	
	経営効率	コア業務粗利益経費率(OHR) (26)	72.50 %	73.44 %	△ 0.94 ㊦	
不良債権	金融再生法開示債権額 (27)	25,288 百万円	24,883 百万円	404 百万円	1.6 %	
	総与信に占める割合 (28)	2.66 %	2.72 %	△ 0.06 ㊦		
	与信関係費用 (29)	1,295 百万円	1,242 百万円	53 百万円	4.2 %	

(2) 平成 28 年 3 月期（平成 27 年度）単体業績予想

荘内銀行の平成 28 年 3 月期通期単体業績は、引き続き資金利益や役務取引等利益の増加を見込み、前期比増益の計画。

		番号	第2四半期累計期間			通期		
			前年同期比	同増減率	前期比	同増減率		
荘内銀行(単体)	経常利益 (30)		2,500 百万円	△ 467 百万円	△ 15.7 %	5,500 百万円	487 百万円	9.7 %
	当期(中間)純利益 (31)		1,500 百万円	△ 406 百万円	△ 21.3 %	3,500 百万円	486 百万円	16.1 %

(次ページへ)



3. 北都銀行

(1) 平成 27 年 3 月期（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）単体業績

ニューフロンティアビジネスへの取り組みを更に強化し、地域への成長資金供給を推進。特に、再生可能エネルギー分野でのプロジェクトファイナンス組成が、事業性貸出の増加のほか、フィービジネス分野での収益積み上げに寄与。加えて、有価証券ポートフォリオマネジメントの奏功による有価証券利息配当金の増加等から、業務純益、コア業務純益が増益。与信関係費用の減少を主因に、経常利益は増益。当期純利益は前期に続き過去最高益を更新。

業容は引き続き拡大。譲渡性預金を含む預金等残高は、個人預金を中心に前期末比 180 億円（1.5%）増加し、1 兆 1,922 億円。貸出金残高は、個人ローン、事業性貸出、地方公共団体向け貸出が総じて増加し、前期末比 187 億円（2.3%）増加の 8,010 億円。

単体自己資本比率は、内部留保の積み上げ等により前期末比 0.45 ㊦上昇し 10.76%（速報値）。

コア業務粗利益経費率（OHR）は、資金利益の増加を背景に前期比 0.05 ㊦良化し 79.78%。

金融再生法開示債権額は、前期末比 79 億円減少。総与信に占める割合は前期末比 1.05 ㊦低下し 1.92%。

		番号	北都銀行				
			前期(末)	前期(末)比	同増減率		
【単体】	損益	経常収益	(32)	23,934 百万円	23,992 百万円	△ 57 百万円	△ 0.2 %
		業務純益	(33)	4,756 百万円	4,493 百万円	262 百万円	5.8 %
		コア業務純益*	(34)	3,764 百万円	3,596 百万円	168 百万円	4.6 %
		経常利益	(35)	4,939 百万円	4,760 百万円	178 百万円	3.7 %
		当期純利益	(36)	4,027 百万円	2,876 百万円	1,150 百万円	40.0 %
	主要勘定残高 (末残)	預金等(含む譲渡性預金)	(37)	11,922 億円	11,742 億円	180 億円	1.5 %
		貸出金	(38)	8,010 億円	7,822 億円	187 億円	2.3 %
		有価証券	(39)	4,954 億円	4,530 億円	423 億円	9.3 %
	自己資本比率	自己資本比率(速報値)	(40)	10.76 %	10.31 %	0.45 ㊦	
	経営効率	コア業務粗利益経費率(OHR)	(41)	79.78 %	79.83 %	△ 0.05 ㊦	
	不良債権	金融再生法開示債権額	(42)	15,662 百万円	23,575 百万円	△ 7,912 百万円	△ 33.5 %
		総与信に占める割合	(43)	1.92 %	2.97 %	△ 1.05 ㊦	
		与信関係費用	(44)	774 百万円	900 百万円	△ 125 百万円	△ 13.9 %

(2) 平成 28 年 3 月期（平成 27 年度）単体業績予想

北都銀行の平成 28 年 3 月期通期単体業績は、地方創生実現に向けた取組みを推進するとともに、ニューフロンティアビジネス向け貸出を引き続き強化し、前期比増益の計画。

		番号	第2四半期累計期間			通期		
			前年同期比	同増減率	前期比	同増減率		
北都銀行 (単体)	経常利益	(45)	2,400 百万円	183 百万円	8.2 %	4,950 百万円	10 百万円	0.2 %
	当期(中間)純利益	(46)	2,000 百万円	△ 607 百万円	△ 23.3 %	4,050 百万円	22 百万円	0.5 %

以上

くわしくは、「平成 27 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」をご参照ください。

【本件に関するお問い合わせ先】	
大石	TEL : 022-290-8800
フィデアホールディングス IRグループ 佐藤	TEL : 023-626-9006
市田	TEL : 018-833-4211